

令和6年度

和歌山県ボランティアフォーラム

～集まれボランティア！広がれスマイル！つながれハッピー！～

報 告 書

和歌山県ボランティア連絡協議会

令和6年度 和歌山県ボランティアフォーラム 報告

1. 日時:令和6年 10月 29日(火)13:30~15:30
2. 場所:県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 9階 りいぶる会議室 A
3. 参加者:55名
4. 活動報告団体:2団体
 - ・キノコ食堂 様
 - ・NPO 法人健康とコミュニティを支援するなるこみ 様

5. 活動報告内容

(1)キノコ食堂 東紀子氏

キノコ食堂は、2018年7月に設立し、今年で7年目の活動です。

様々な理由で食事ができない子、ご家族がお仕事のために一人で食事をしている子どもたち、そんな子どもたちに加えて、高齢者が一人で食事をしていることへの対策、そして町内に移住してこられた方のコミュニティの場になるよう活動が始まりました。

キミノのキ、キミノのノ、コドモのコをとって「キノコ食堂」とみなさんに親しまれています。

開催は、毎月第2金曜日 17:30~20:00、場所は、紀美野町の動木集会所です。開催日には、子どもたちが染色してくださったのれんを出しています。

利用対象者は紀美野町に在住、または通勤通学の方。費用は高校生以下無料、大人 300 円。アレルギーの対応をしていないことと、何かあった時に家族に連絡が取れるようにするため、事前登録をお願いしています。

現在(R6.10 時点)登録者は、子ども 158 名、大人205名の363名です。

登録者が多いことから、隔月(奇数、偶数月)に利用していただく方を分けています。そのため、2 か月メニューは同じものを提供しています。イベントを実施する5月(こどもの日)と12月(クリスマス)は、全員来てもらえるようにしています。

開催のお知らせは、SNS(Facebook、公式 LINE)で配信しています。SNS を使えない高齢の方には、お電話にてお知らせしています。

コロナ禍により中止になったことや、お弁当配布に変更しましたが、コロナ禍以降は集会所でお食事を提供しています。

ボランティアは 20 名です。元気な 60~70 歳代の集まりであり、移住で来られた方や、専門職だった方(病院、栄養士、調理師、看護師など)、そして主婦のプロがおり、みんな誰かのために何かしたい!という目的をもって活動しています。

体力的にきついなと思うこともありますが、学生ボランティアが助けてくれています。

町内の中学校や高校に、ボランティア募集のチラシを掲示させていただくことで、毎月 15~20 名が来てくれます。学生ボランティアさんには、配膳や、小さな子どもの相手などのお手伝いをお願いしています。学生ボランティアの中には、こども食堂に食べに来てくれていた子が今で

は手伝いに来てくれたり、こども食堂は、学生ボランティアの居場所にもなっており、また、町内で、手伝いに来てくれる中学生や高校生の子に会うと手を振ってくれます、こういった繋がりが嬉しく思います。

開催日は、朝から買い出し、下準備、調理、休み時間にはティータイムとお喋りをしながら、次のメニューやイベント決めていきます。この時間は、ボランティアにとって必要でとても大切な時間です。

メニューについてはご支援いただいている食材等で決めています。

こども食堂を運営することは楽ではありません。物価が高騰しているため、ご支援やご寄付がとても助かっています。町内の棚田でできたお米をもらった時は、白いおむすびを作りました。モチモチして、おいしかったです。また、頂いた餅米でお餅つきをしました。町内のお餅つき名人が杵と臼をもってきてくれました。

開催日当日、持ち帰りのお弁当を利用される方は、全体の 7~8割です。

お弁当屋さんではないけれど、子育て・お仕事を頑張っているお母さんたちに、今日は夜ご飯作らなくていいという日を作ってあげるお手伝いが出来ればと思っています。

集会所で食べられる方もおられます。家の中で1人で食事をするより誰かと食事をする楽し、大切な時間だと思います。

うまくいかないこと、しんどいこともたくさんありますが、来てくれた方が、おいしかった、ありがとうと言ってもらえると、また頑張ろう！という気持ちになります。

食中毒、衛生面に配慮し、この活動を若い世代に伝えて長くつづくようになっていければと思っています。

(2)NPO 法人健康とコミュニティを支援するなるコミ 宇都宮越子氏

なるコミは、和歌山市鳴神の宇都宮病院敷地内にあります。

元々は、病院で無料送迎(半径5キロ以内)をしていたときに、患者さんにお困りごとや地域の問題などを聞きました。「近くにあったスーパーが閉店した。生活する際利用していたバスは廃線予告された。こども会がなくなった、交流の場がない。膝が痛い、引きこもりの高齢者が多い。高齢化、認認介護、老老介護、障害のあるお子様をご自宅で見ている高齢者が入院した時に子どもの預け先をどうしよう、独居世帯、高齢世帯、認知症の方が増えている。」といった地域の問題がたくさんあることが分かりました。

そこで、病院としても面白いことをしてみよう！と、2015年10月になるコミの建物を建て、2021年には、認定NPO法人を取得しました。

なるコミでは、11~14時に外来食堂、薬膳ランチを運営。それ以外は、地域のコミュニティとして開放しています。それぞれ地域の方や企業の方が講師となり、なるコミ体操、フラダンス、昭和ディスコ、卓球、ウクレレ、将棋、ヨガ、骨盤体操、健康マーじゃん、陶芸でコーヒーカップづくり、コーヒーセミナー、アロマリップクリーム作り、スマホ教室、お金のセミナー、温泉の入り方教室、生前整理の教室、大人の英語教室、フルーツカッティングの教室、風水開運、がん患者さ

んサロン(コロナ禍からはお休み中)、なるこみカフェ(認知症予防カフェ・落語・腹話術・薬膳スイーツ・病院の作業療法士が認知症予防体操)、薬膳お料理教室、その他、クリスマスアレンジメント、しめ縄づくり、門松づくり、もちつき大会などを開催しています。

全ての教室で、参加費は500円までとさせていただき、参加者が4人以上集まったときは、講師の方からなるこみに運営費(光熱費など)として1000円入れていただくようにしています。

その他、こども夢基金を使って、学習支援やクッキング、自然体験など、1週間実施。また、お祭り、地域の方とわら祭り(カツオの食べ比べ、わら納豆、わら人形作り)や、エンジョイ鳴神、ダンススクールの方のダンス披露、地域の企業に協力してもらい鳴神を歩くスタンプラリーイベント、仮装、防災セミナー、棺に入る体験(棺に入ると長生きできるという言い伝えがある)、多様性をテーマにしたファッションショー、医療と介護の勉強会、地域の保健室・相談室、市民体験型農園(JA、和歌山大学協力のもと収穫祭)などを行っています。

なるこみで行っている鳴神こども食堂は、毎月第2水曜日 17:30 からお弁当配布を行っています。大人は300円、子どもは無料です。

メニューは、当日ご寄付いただいた食材を見て決めています。足りない食材は買いに行きます。お弁当を配布するうえで気をつけていることは、食品衛生です。

お弁当は、約360食作っており、当日16:30から申込受付しています。

利用されている方からは、「お弁当がある日は、子どもと向き合っ一緒に食事ができて助かっています」と喜ばれています。

こども食堂は、2015年から実施しており、以前は130人くらい来てもらって食べていました。今は、夏休みと春休みに人数を制限し、なるこみで食べていただいています。

こども食堂では、食育活動にも取り組んでおり、田植え・稲刈り体験、和歌山市リリクルちゃんの3R運動、食育〇×ゲーム、黒豆収穫・玉ねぎ植えなどの体験、お箸の使い方教室、豆つかみゲーム、キッズクッキングスクールなどを、企業などと連携し活動しています。

ボランティアは、市内の学生や、こども食堂の勉強に来られた方、SNSを見て来られた方や84歳の方など、約20名の方にお手伝いいただいています。

なるこみのコンセプト「地域のゆるい結び目づくり」として、こういったコミュニティは、災害時や高齢化の今、役に立っていると感じています。

災害時、炊き出しなども今、活動していただいているボランティアさんに協力いただき出来るのではと思っています。

こども食堂=貧困、孤食といったマスコミが報道したままのイメージを持たれていることが多いですが、なるこみでは、地域の第3の居場所(家でもなく、学校でもない)として子育て支援や家事支援を行っています。

6. 交流会

グループに分かれて、自己紹介を行ったあと、テーマに沿って話し合いました。その後、発表しました。

- (1)こども食堂のイメージ・印象って何だろう？
- (2)こども食堂で自分に出来る役割を考えてみよう。
- (3)こども食堂を通して自分の住んでいる地域をどんな地域にしたい？
- (4)活動報告を聴いて、これから取り組もうと思ったこと

話し合いの内容については、【別紙①】をご覧ください。

7. アンケート集計結果

【別紙②】をご覧ください。

.....

今年度は、今注目されている【こども食堂】をテーマにボランティアフォーラムを開催いたしました。

活動報告では、それぞれの地域で必要とされているこども食堂について貴重なお話を聞かせていただきました。

交流会を通じて、普段は、別の分野で活動されている方同士、お互いの活動を知り顔の見える関係を築くことができました。

ご参加・ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

今後も引き続き、和歌山県ボランティア連絡協議会にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

和歌山県ボランティア連絡協議会 事務局 一同

【別紙①】 令和 6 年度 和歌山県ボランティアフォーラム交流会

テーマ(1)こども食堂のイメージ・印象って何だろう？

- ・「居場所づくり」←地域交流の場
- ・シェルターみたいな感覚(大人、子ども関係なく)
- ・大人が料理を作って子どもが食べにくる
- ・こども食堂＝貧困家庭で食事を食べられない子どもが行くところ
- ・貧困家庭のイメージを変えるために色々な世代の方が来れるようにしている(子ども達が行きやすくするため)
- ・多くの世代が交流する場でしつけなど子どもの勉強の場
- ・田辺市でこども食堂を始めた方がいる。設立時に市議さんが関わっていたことで集客力が違うと思った。
- ・実際は、子どもだけではなく、高齢者や大人、家族で利用する方が多く、制限をかけないといけなくなったところがある。それでも現在 100 名ほど利用がある。
- ・今年立ちあがった。例えば「かえる食堂」や「にこにこ食堂」のように「子ども」と限定的イメージにならないネーミングが良いと思う。
- ・和歌山市では、65 歳以上の方対象に「ふれあい食事会」を開催
- ・「おしゃべりサロン」(白浜町)毎週水曜日 PM1:00～4:00にお茶を飲んだりする場があり、色々な情報交換ができる。
- ・「モーニングカフェ」では、独居の高齢者にとっての居場所づくりを積極的にしている。
- ※白浜町日置で、週 1 回、コーヒー 1 杯 100 円で社協が開催している。
- ・小さい子どもが来ている(親子が多い)
- ・貧困の子どもが来る「こども食堂」の名前のため高齢者が行きづらい
- ・地域の子供達が集える所
- ・協会が食事を提供、小さい子どもの預かり所
- ・気軽に参加できない
- ・料理のレパートリーが増える。
- ・子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が交流できる場所(理想)
- ・食事提供→弁当提供(コロナ)
- ・食べる場所の提供が重要と考えていた→みんなで集まって話す
- ・和歌山市内にあるの？ 結構ある → 知らない人も多く、広報が難しい。和歌山市内に 26 か所、県内 81 か所ある。
- ・居場所がない子ども達、コミュニティの強化
- ・お年寄りも集まる
- ・防災にもつながる
- ・社会的な勉強になる
- ・顔の見える関係
- ・テレビだと子どもの貧困が大きいと思うが、広い意味で活動されている
- ・幅広い年齢とふれあえる場になっている
- ・閉じこもる、一人にいる人にとって交流の場となる

・フォーラムに参加するまでは、テレビなどで子どもの貧困のためという事が大きいと思っていたが、参加後は幅広い年齢の人とふれあえる場になり、閉じこもり、一人でいる人にとって交流の場になっている。

テーマ(2)こども食堂で自分に出来る役割を考えてみよう

- ・配膳ならできる
- ・子どもの相手をする
- ・食料を切るだけの人とかよそだけの人も OK
- ・何でもやってみたい
- ・誰でも何かやれることはある
- ・ボランティア活動で参加するだけで元気になる
- ・社会参加していると思える
- ・配膳、配達のボランティア
- ・働いていたら平日は無理だが、土日なら行けるかも。見学などをして何ができるか知りたい
- ・情報を発信する(SNSなどで)
- ・米の余った(農家さん)人に〇〇という施設で活用できるよと伝えること
- ・自分に出来ることをする、話し相手でもよい
- ・例えば平日に働いていたら情報発信でもOK
- ・料理を作る事を助けること、参加するだけでボランティアも参加した人も元気になれる様に。
- ・何ができるか知りたい、知ることから始める
- ・配膳、配達のボランティア、重いものを運ぶ
- ・身内が栄養士→アドバイスをもらうことができる
- ・野菜の提供可→自分で調理も可、虫がついていないか不安

- ・食べ物を提供→食中毒が不安、免許(調理師免許など)→不要
- ・その日に提供するものを作る分には心配なし
- ・物、金品の寄付
- ・多人数に提供予定の場合、一定の器具が必要
- ・一定の会費(大人から300円ほど)あれば運営は可能
- ・地元公民館も一つの場所となる
- ・サロンを運営中→こども食堂の機能を付ける
(事例:お弁当を注文し、サロン参加者で食べる→お弁当を自分達で調理に変える)
- ・参加者から一品を持ちよってもらい他の参加者と分け合う
- ・特技を生かす(事例:料理が得意な人を講師に料理教室的に企画)チラシ作り、SNS発信
- ・賞味期限が近付いてきたものを提供
- ・栄養面でのサポート、子どもの偏食が気になるお母さんのサポート(お母さんに寄り添えるサポート)
- ・内気、人見知りな子どもたちに寄り添いたい。友達を作ってあげたい(何でも話しを聞ける人でありたい、また来たいと思ってもらえる場所づくり)

- ・何でもできる身の回りの手伝い
- ・色々な話を一緒に作業しながら聞いてあげる、安心させてあげる
- ・地域の少子化により子どもが減少、どうしたら子どもと関われるか考える
- ・料理の手伝い、思春期の子どもたちの話を聞く
- ・外国人の子ども達も利用してもらい、交流をしてもらう。
- ・料理面以外でのサポート(絵本の読み聞かせ、レク等)
- ・おしゃべり、遊び相手
- ・調理
- ・子どもと一緒に工作、宿題
- ・配膳
- ・昔の遊び(折り紙等)
- ・トイレ掃除
- ・行って参加して分かることがあると思うので、実際に行って参加してみたい。

テーマ(3)こども食堂を通して自分の住んでいる地域をどんな地域にしたい？

- ・昭和のような地域のコミュニケーション(子ども、大人関係なく)
- ・地域の人が見守りができる
- ・こども食堂を通して地域のつながりを深めたい
- ・いろんな活動を通してここで子どもを育てたいと思う地域にしたい(町おこし)
- ・みんなに「こども食堂」を知ってもらいたい、伝えたい
- ・いろいろな年代の人と交流したい、関わりたい
- ・様々な知識を伝え合える(子どもに教える)
- ・こども食堂という場所で知り合いになれる
あいさつなどしても知り合いではないので
- ・地域の交流する場として「こども食堂」を活用する
- ・様々な年代の人と関わりをもてる場とすることで災害時や困ったことがあった時に助け合える地域にしたい
- ・高齢化が進んでいる地域であれば地域の活性化(例:有田川町では高齢化率が50%を超えている)

テーマ(4)活動報告を聴いて、これから取り組もうと思ったこと

- ・ネーミングを考える
- ・参加できない人をどう引き込むか？
- ・元気な人は自分で行けるが、一人で外出できない人を呼ぶには？
- ・学校に協力してもらって学生さんとコラボする
- ・広報のやり方 チラシも大事だけど LINE などで広報する、QR コード等
- ・奇特な人を巻き込む 色々専門な人

【別紙②】 令和6年度 和歌山県ボランティアフォーラムアンケート集計

1. お住まいは

和歌山市 23名、海南市 3名、紀の川市 1名、岩出市 1名、御坊市 1名
岩出市 1名、紀美野町 2名、有田川町 2名、湯浅町 1名、由良町 1名
湯浅町 1名、白浜町 4名、那智勝浦町 1名

2. フォーラムをどのようにして知りましたか？

社会福祉協議会からの案内 27名、チラシ 3名、ホームページや SNS 1名

3. フォーラムの感想を記入ください。

- ・人数が多く、会場が狭いと思いました。
- ・知らない事が多く、勉強になりました。
- ・2団体からの活動報告を聞き、地域での結びつき強化が防災にもつながるのではないかと感じた。
- ・こども食堂のテーマでの交流であったが、ボランティアフォーラムなので他のボランティアさんの活動を聞いてみたかったです。
- ・貴重なお話をたくさん聞いてよかったです。勉強になりました。
- ・こども食堂の事が大変良くわかりました。今後何か協力出来たらと思います。
- ・みなさま大変頑張らせてもらって嬉しいです。
- ・こども食堂がどこでどういった活動をしているのか知らなかった為、詳しく知れてよかった。又、関わっているボランティアの方たちの思いや行動も知れて良かったです。機会があればこども食堂ボランティアに参加してみたいと思います。
- ・最初に思っていたイメージと違って色々な活動をしていると思いました。
- ・なるこみの宇都宮さんの講話がわかりやすく理解できた。
- ・食事だけでなく、子どもと大人がコミュニケーションを取る貴重な場所であることが分かった。
- ・とても参考になったフォーラムでこども食堂についてもいろいろなことを学ぶことができた。こども食堂を見学してみたいと思いました。
- ・様々な意見をグループで話し合っただけで学びになった。また、こういうフォーラムを開催してほしいです。
- ・関心のあったことがたくさん解ったので参加してよかった。
- ・現在取り組んでいるボランティアと内容も違うので、短時間に全てを理解することはできなかったが各グループの方々の日常の運営に苦労されることがよくわかりました。
- ・キノコ食堂さん、なるこみさんのお話を聞くことができて大変勉強になりました。まずは、自分ができることなどを考え行動していきたいです。
- ・とても勉強になりました。
- ・いろいろな意見が聞いてよかった。
- ・いろんな方がいていろんな話が聞けました。
- ・こども食堂の話聞いて、高齢者には無理かな？と思ったのですが、どんな小さなことでも役にたつことがあるという話を聞いて自分自身にもできることがあるかなと思いました。
- ・若い人達とのグループワークに参加しました。初めてのこども食堂の印象はこども、中高生、そして高齢者と幅広い年齢層での諸活動は、人生協和が出来ていることに感動を覚えた。食の大切さ、会話の積み重ねによる活動の大切さを認識した。
- ・積極的に活動してくれる方がいるのは、とても強みだなと思った。学生ボランティアなどの巻き込みかたや地域の資源をどう生かすか。今後の参考になる話も聞いて良かったです。発表がとても分かりやすかったです。

- ・社会福祉協議会の方がたくさん参加されていて、また、こども食堂のみならずさまざまなボランティア活動をされている方がいらっしゃって大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・活動報告団体の報告が非常によかった。思っていた以上に様々な活動をされている事がわかりました。
- ・ボランティア(食堂)について今まで考えていなかったような意見を皆さんから聞いて勉強になりました。
- ・こども食堂についての報告がよかった。
- ・こども食堂を運営している方の生の声を聞いてよかった。苦労もあるようだが、楽しくすることが大切だと思った。
- ・こども食堂の印象が変わりました。コミュニケーションも大切だと思います。
- ・活発な意見の交換ができてよかった。こども食堂の内容、目的などが理解できた。
- ・こども食堂のことも詳しく伺えて有益でした。グループ交流では、いろんな活動をされてる方に出会えてよかったです。
- ・初めてのフォーラム参加で良い勉強になりました。
- ・私達は、いちボランティアグループのメンバーで、本日はお勉強させてもらいました。ありがとうございました。
- ・直接、業務とこども食堂は関係ないが、個人的興味があったため、ためになりました。
- ・良かったが時間が押した。
- ・とても興味深いお話が聞いて大変勉強になりました。
- ・皆さん活発であった。
- ・今回、初めて参加させていただきましたが、こども食堂は安易にできないと思いました。
- ・こども食堂のことが知りたくて参加しました。知人が12月2日にスタートするので、ボランティアで頑張ります。
- ・いろんな活動があって素晴らしいです。

4. その他、ご意見(今後、聞いてみたいボランティア活動など)

- ・災害ボランティアの経験談など。
- ・ぜひ、こども食堂に機会があれば参加してみたいです。
- ・自分には少し無理かなと思っている方もいると思うけど、きっかけや出会いで地域食堂(こども)も始めていけるのでは。
- ・機会があれば今回のようなフォーラムに参加して活動状況を把握したいと思います。



令和6年度

和歌山県ボランティアフォーラム

～集まれボランティア！広かれスマイル！つながれハッピー！～



－開催日時－

令和6年10月29日(火)13:30～15:30 <来場無料>

－会場－

県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 9階 りいぶる会議室 A

〈主催〉和歌山県ボランティア連絡協議会
〈共催〉社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

スケジュール

テーマ
こども食堂で
ボランティア

| 時間 | 内容 |
|-------------|------|
| 13:15 | 開場 |
| 13:30 | 開会 |
| 13:35-14:35 | 活動報告 |
| 14:40-15:25 | 交流会 |
| 15:30 | 閉会 |

活動報告団体

- キノコ食堂 東紀子氏
- NPO 法人健康とコミュニティを支援するなるこみ 宇都宮 越子氏

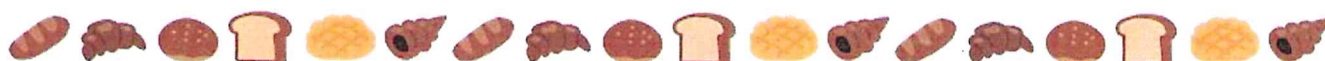
活動報告団体プロフィール



1. キノコ食堂(キミノコども食堂)

和歌山県紀美野町初のこども食堂です。
毎月第2金曜日 17時30分から20時に紀美野町動
木集会所で開催しています。

- Facebook <https://www.facebook.com/profile.php?id=100068182113248>
- Instagram <https://www.instagram.com/kinokosyokudou18/>
- 連絡先 080-9883-1496(ひがし)



2. NPO 法人健康とコミュニティを支援するなるこみ

健康とコミュニティを支援する

なるこみ

『なるこみ』とは、“和歌山市鳴神にあるコミュニティ”の略で、地域住民のためのコミュニティ施設です。菓膳ランチや子ども食堂等、様々な活動を行っています。

- ホームページ <http://narucomi.com/>
- Facebook <https://www.facebook.com/narucomi>
- Instagram <https://www.instagram.com/narucomi3?igsh=MWtsdzJuOTFyaTR5cQ==>
- 連絡先 〒640-8303 和歌山市鳴神 505-4
TEL:073-471-1162 / FAX:073-471-6399



和歌山県子ども食堂応援ネットワーク

子ども食堂及び子ども食堂を応援する個人・団体等のネットワークを形成、拡大し、子ども食堂間の交流や経験知・情報の共有、子ども食堂への理解普及及び子ども食堂への具的的な支援を提供することで、子ども食堂が地域で継続的に運営できるよう応援します。

子ども食堂については、単に食事を提供する場としてだけではなく、子どもたちにとって家庭でも学校でもない第三の居場所、地域の誰もが参加できる交流拠点として、社会的にも注目を浴びています。

子ども食堂は地域の皆様によって運営されていることが多く、活動の目的や内容は各子ども食堂によりそれぞれ異なります。

子ども食堂を利用したい方や、食材提供やボランティア等、運営に協力したい方(団体)は、下記までお問い合わせください。

【和歌山県子ども食堂応援ネットワーク事務局】
社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会 総務企画部 企画班
TEL 073-435-5224 FAX 073-435-5226
メール w-kodomo@wakayamakenshakyo.or.jp
ホームページ <https://w-kodomo.hp.peraichi.com/>



交流会

グループに分かれて次の自己紹介(1~3)をし、グループ内で話し合ってみよう！最後に発表していただきます。

1. 所属団体名
2. 名前(ニックネーム)
3. 普段の活動内容など
4. 今年のフォーラムテーマは「こども食堂でボランティア」です。
次の中から2つをグループで話し合ってください。
最後にグループで話し合ったことを発表していただきます。

- ① こども食堂のイメージ・印象って何だろう？
- ② こども食堂で自分に出来る役割を考えてみよう。
- ③ こども食堂を通して自分の住んでいる地域をどんな地域にしたい？
- ④ 活動報告を聴いて、これから取り組もうと思ったこと。



和歌山県ボランティア連絡協議会 事務局

〒640-8545 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階

TEL 073-435-5220 FAX 073-435-5221

E-mail:waka-vc@wakayamakenshakyō.or.jp



令和6年度和歌山県ボランティアフォーラム



令和6年度和歌山県ボランティアフォーラム



令和6年度和歌山県ボランティアフォーラム



令和6年度和歌山県ボランティアフォーラム



令和6年度和歌山県ボランティアフォーラム

令和6年度
和歌山県ボランティアフォーラム

2024.10.29
和歌山県ボランティア連絡協議会